

科目名 【英】	生物学 【Biology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	1 年生	学 期	1. 2 学期	曜 日	1 学期月曜 2 学期金曜	時 限	2 限

1 学期 担当教員	高木 健之	実務者経験	専門学校臨床施設にて 2 年間施術担当				
2 学期 担当教員	坂井 優志	実務者経験	金沢武士団鍼灸整骨院 1 年間勤務 まえいけ整骨院 1 年半勤務				

学習内容	基礎医学を学ぶ導入段階として、生物学のヒトに関する生物現象を学ぶ。						
到達目標	生物学の知識格差を無くし、並行して基礎医学を学ぶことで基礎医学への学びが円滑になること。						

準備学習 時間外学習							
使用教材	配布資料						
留意点 備 考							

成績評価	本試験 100%						
------	----------	--	--	--	--	--	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	人体の構成	細胞や組織など人体を構成するものを列挙できる。 細胞小器官などの機能の説明ができる。
2	循環器系	循環器系の解剖学的用語を列挙できる。
3	循環器系	心臓からの循環について説明できる。
4	呼吸器系	呼吸器系の解剖学的用語を列挙できる。
5	呼吸器系	呼吸運動や呼吸の生理学について説明できる。
6	消化器系	消化器系の解剖学的用語を列挙できる。
7	消化器系	消化器の機能を説明できる。
8	泌尿生殖器系	泌尿器、生殖器の解剖学的用語を列挙できる。
9	泌尿生殖器系	泌尿器生殖器の機能を説明できる。
10	1 学期の復習	
11	試験	試験
12	まとめ	

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	1 学期の復習	人体の構成～泌尿器生殖系までの総復習
2	神経系①	中枢神経系の解剖学的用語を列挙できる。
3	神経系①	中枢神経系の機能を説明できる。
4	神経系②	末梢神経系の解剖学的用語を列挙できる
5	神経系②	末梢神経系の機能を説明できる。
6	感覚系	感覚器系の解剖学的用語を列挙できる。
7	感覚系	感覚器系の機能を説明できる。
8	内分泌系	内分泌線の解剖学的用語の列挙できる。
9	内分泌系	内分泌線の機能を説明できる。
10	2 学期の復習	
11	試験	試験
12	予備日	

科目名 【英】	コミュニケーション学 【Communication Studies】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	1 年生	学 期	1.2 学期	曜 日	1 学期：木曜 2 学期：水曜	時 限	2 限

1 学期 担当教員	吉川 征延	実務者経験	2004 年～2005 年 新淡路病院にて臨床心理士として従事 2005 年～ 阪南病院にて臨床心理士として従事
--------------	-------	-------	---

学習内容	社会人として必要な基礎学力の向上を図る。
到達目標	文章を読み、論理的に書くことを学ぶ。次にグループワークを通して、各自の意見を尊重しながらも、自分の見解を適切に伝えることができるようになる。

準備学習 時間外学習	授業をきっかけとして、日常生活における自分のコミュニケーションのあり方に関心を向けてみましょう。
使用教材	【配布資料】あり
留意点 備考	それぞれのテーマに応じたワークを実施します。

1 学期 成績評価	本試験 60% 平常点 40%
--------------	-----------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	授業内容 自己 PR	「自己PR」と「自己紹介」の違いを学び、実際に「自己PR」文を書いていく。
2	履歴書の書き方	「履歴書」の書き方について学び、実際に記述していく。
3	グループディスカッション	一つのテーマを話し合い、集団討論の方法を学ぶ。
4	論文・レポートの書き方 1	「論文・レポート」と「作文・感想文」の違いを学び、実際に小論文を書いていく。
5	新聞の読み方	新聞記事を読み、要約して、発表していく。
6	評論文の読み方	評論文を実際に読んで、要約して、発表していく。
7	グループワーク	一つのテーマからグループ全員で他の人が理解し、納得する説明ができるかということを学んでいく。
8	敬語の知識	尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方を学び、実践的な活用をしていく。
9	電話の対応	電話のかけ方と受け方のマナーを学ぶ
10	論文・レポートの書き方 2	就職や試験に役立つテーマから小論文を書き、自分の見解を発表していく。
11	試験	
12	予備日	

2 学期 担当教員	北川 朋子	実務者経験	聖トマス大学（英知大学）文学部「西欧文化史」「世界史」「英語」他担当 2000 年～2012 年 京都橘大学「キャリア開発講座 国語の基礎」担当 2014 年～2016 年 びわこ学院大学「基礎学力講座 国語の基礎」担当 2017 年～現在に至る 清風情報工科学院 日本語学科「漢字特講」担当 2017 年～
2 学期 担当教員	西 佳代子	実務者経験	2019～2020 淀川こころクリニック 臨床心理士として従事 2019～2020 関西大学学生相談支援センター 2021～2022 堺市教育委員会スクールカウンセラー 2023～現在 関西大学北陽高等学校・中学校 スクールカウンセラー

2 学期 成績評価	本試験 70% 平常点 30%
--------------	-----------------

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	心理学とは	講義の進め方、オリエンテーション、心理学とは
2	人の行動（１）	行動と欲求、動機づけ、葛藤・欲求不満、学習
3	人の行動（２）	レスポナント条件付けとオペラント条件付け、社会的学習、記憶
4	概論	オリエンテーション・コミュニケーションとは
5	自己理解	対人援助者としての自己理解
6	対人コミュニケーション１	非言語的コミュニケーション・準言語的コミュニケーション
7	対人コミュニケーション２	言語的コミュニケーション①
8	対人コミュニケーション３	言語的コミュニケーション②
9	援助的コミュニケーション１	自己決定への支援
10	援助的コミュニケーション２	ケアのためのコミュニケーション
11	試験	試験
12	まとめ	振り返り・まとめ

科目名 【英】	外国語①～医療英語～ 【Foreign Language】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単位	3
学年	1年生	学期	2.3学期	曜日	月曜	時限	2限

担当教員	南 雅子	実務者経験	1989年～医療系専門学校にて医療英語指導/医師、東洋医療治療者、薬剤師、理学療法士、看護師、スポーツ関係者への英語指導 2012年 TOEIC L495/495 R415/495 2011年 MEDIENT 医療通訳研究員 2018年(5年間)Center for Health and Right of Migrants 登録母子保健通訳
------	------	-------	---

2学期 学習内容	鍼灸師としておさえておきたい基礎医療英語(症状名、各医療機関名、医療略語、患者対応会話、バイタル、身体名、痛みなど)および診療に役立つ基礎英語知識を学ぶ。
3学期 学習内容	2学期に学んだ基礎医療英語の知識を用いて、東洋医療の英語、鍼灸、スポーツトレーニングにおける専門英語をとりあげながら鍼灸治療で使えるさまざまな表現などを学ぶ。
2学期 到達目標	医療従事者を目指す上で知っておきたい基礎医療用語や表現の習得を目指す。
3学期 到達目標	東洋医療英語、鍼灸英語の習得を目指しながら、鍼灸治療におけるさまざまな表現などを使えるようにする。

準備学習 時間外学習	症例名、バイタルなどの医療英語を学んでいくので医療の基礎知識があることは望ましい。
使用教材	教科書『MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION』(国際教育者社) 配布プリント
留意点 備考	外国語①において、東洋医学、鍼灸の専門英語を学習するので基礎力をつける。

成績評価	2学期	2回の発表と医療英単語の口頭試験を実施。 学期末試験80%+発表/口頭試験20%で評価する。	3学期	3回の発表と医療英単語の口頭試験を実施。 学期末試験75%+発表/口頭試験25%で評価する。
------	-----	---	-----	---

2学期 授業計画【内容・目標】				
1	医療英語①1	医療英語、授業の進め方/受付 Ch.1/発表(1) - 自己紹介/よく使う英語表現(1) 医学英語の概要を理解することを目標とする。	MA	A～B
2	医療英語①2	身体部位の名称 Ch.3/症状 Ch.4/顔の名称/名刺の書き方/ファイルの使い方 症状の言い方、体の名称が言えるようことを目標とする。	MA	C～D
3	医療英語①3	病院各科名 Ch.2/痛み Ch.3/問診 Ch.5/英語問診票(内科/整形外科)/身体部の名称 内科、外科の問診票を用い問診方法の学ぶ。	MA	E～H
4	医療英語①4	問診アレルギーや既往歴 Ch.6/内臓器官名 Ch.6/発表(2) Group Work - 受付、診察室の会話 病院の受付や診察室での会話ができるようになることを目標とする。	MA	I～N
5	医療英語①5	内科 診察/測定 Ch.7/バイタルサイン Ch.8/血管、心臓/病院会話のヒント/受付、診察室の会話 病院の受付や診察室での会話ができるようになることを目標とする。	MA	O～S
6	医療英語①6	外科 Ch.9/ 検査、処置 Ch.10/会計 Ch.16 /会計窓口の表現/医療系就職教養英語問題 医療系教養問題を解いてみることで医学英語の基礎理解を目標とする。 MA カルテ略語 etc. /T～Z		
7	医療英語①7	救急患者 Ch.11/緊急時の英語/処方箋と薬 Ch.17/揭示表現 etc. 医療従事者が知っておきたい緊急時の英語の単語や用語を使えることを目標とする。		
8	医療英語①8	医療英単語 Review/多言語問診票(内科、外科)/カルテ Ch.18/歯科 Ch.19 医療英単語のまとめと練習によって基礎知識の理解を目標とする。		
9	医療英語①9	医療英単語一口頭試験/ 骨系、筋肉系資料解説 医療英単語の口頭試験によって発話の機会と定着を目標とする。		
10	医療英語①10	医療英語用語/医療現場で使う表現/バイタルサイン/医療英単語/医療各科名などの復習 善意期末試験のためのまとめ学習をすることによる復習を目標とする。		
11	医療英語①試験	2学期末試験		
12	医療英語①12	試験返却、見直し/よく使う英語表現/鍼灸の基礎 Ch.15/Work Out/お礼、お見舞いの英語-資料 試験の見直しと、3学期に行う鍼灸の英語の説明を行う。		

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	医療英語② 1	針灸、漢方の単語、/鍼灸院での治療/瞑眩反応(好転反応)/痛みの表現、人体名/発表(1)受付の会話 東洋医療、鍼灸の英語をどう学んでいくか説明し授業への取り組みを理解することを目標とする。
2	医療英語② 2	つば、陰陽、手技の単語、/鍼灸院での治療/手指、足指、間接/海外の鍼灸資料/内蔵名 海外における鍼灸治療の現場の話や現場で使われる用語などの練習を行う。
3	医療英語② 3	血液、神経、筋肉の単語/指の関節、足の関節/鍼灸治療時の英会話 鍼灸治療時の英会話の練習により使えることを目標とする。
4	医療英語② 4	組織、関節、靱帯/ 鍼灸治療のフレーズ/鍼灸院の受付、診察室での会話(ペアの打ち合わせ練習) 鍼灸院の受付、診察室での会話をペアで練習して様々な表現を学ぶことを目標とする。
5	医療英語② 5	呼吸器疾患、循環器疾患/足ツボの英語/発表(2)鍼灸院の受付、診察室の会話 鍼灸院の受付、診察室での会話の発表により使えるようにすることを目標とする。
6	医療英語② 6	鍼灸治療に使う用語/鍼灸院での英語の同意書/リスニング-鍼灸院での会話 鍼灸院での会話のリスニングによって英語表現になれることを目標とする。
7	医療英語② 7	炎症の5兆候、婦人科系/骨/鍼灸用語まとめ/鍼灸治療での会話(スクリプト作成提出、練習) 鍼灸治療に関連する症例の紹介、治療での会話を各自考えることによる理解向上を目標とする。
8	医療英語② 8	発表(3)-鍼灸治療での会話/筋肉、皮膚、中医学/口頭試験のための単語復習 鍼灸治療の会話の発表により色々な表現を使えるようにすることを目標とする。
9	医療英語② 9	口頭-試験鍼灸、東洋医療関連用/鍼灸でよく扱う疾患まとめ 鍼灸、東洋医療関連の英単語の口頭試験により理解と話せることを目標とする。
10	医療英語② 10	鍼灸用語、東洋医療、疾患系、鍼灸治療の英語などの復習 試験のためのまとめ学習を通して学習内容の定着を目標とする。
11	医療英語② 試験	3学期末試験
12	医療英語② 12	試験返却、見直し/鍼灸院の英語ホームページ/鍼灸院問診票/鍼灸、東洋医療用語資料配布 現場で使えるさまざまな資料の紹介と使用練習による実践へのサポートをする。

科目名 【英】	自然療法概説 【Outline of Naturopathy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	1 年生	学 期	1 学期	曜 日	金曜	時 限	1 限

担当教員	社家 あい子	実務者経験	2003 年～2008 年日本メナード化粧品株式会社で技術職員として従事 2001 年日本アロマセラピー検定 1 級、2 級取得
------	--------	-------	---

学習内容	自然療法（特にアロマセラピー）について学習する
到達目標	社団法人日本アロマ環境協会が実施するアロマセラピー1 級検定試験合格程度の知識および鍼灸師が使える応用手技を修得する

準備学習 時間外学習	なし
使用教材	プリント配布
留意点 備 考	

成績評価	本試験 100%
------	----------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	授業概要	①自然療法について ②美容鍼灸について
2	検定対策 1	精油の基礎知識
3	検定対策 2	精油が働くしくみ、安全のための注意
4	検定対策 3	精油プロフィール
5	検定対策 4	精油プロフィール
6	検定対策 5	精油プロフィール
7	検定対策 6	精油プロフィール
8	検定対策 7	精油プロフィール
9	検定対策 8	試験対策・総復習
10	まとめと総復習	まとめ
11	試験	試験
12	実技実習	①アロマセラピーの利用法と素材 ②背面のオイルマッサージ

科目名 【英】	解剖学① 【Anatomy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：火曜 2 学期：土曜 3 学期：水曜	時 限	1. 3 学期：1 限 2 学期：1. 2 限

担当教員	山本 岳	実務者経験	学校附属診療所にて 3 年間勤務
------	------	-------	------------------

学習内容	筋骨格系の名称を学ぶ 骨の構造、関節構造を学ぶ 筋の作用よりどのような運動が起きるかを学ぶ
到達目標	ヒトの骨の名称を列挙できる ヒトの骨の部位の名称を列挙できる ヒトの筋の名称を列挙できる 筋の作用を筋の名称と併記できる 運動により起きる障害が想起できる

準備学習 時間外学習	配布資料の事前確認 解剖学教科書の内容確認
使用教材	配布資料【ファイル】 医歯薬出版解剖学第 2 版 医学書院プロメテウス解剖学コアアトラス第 3 版
留意点 備考	資料を事前に確認しておくこと

成績評価	平常点：30%【小テスト：10 点満点】 本試験：70%【筆記試験：100 点満点】
------	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	身体の構造など 骨の分類・構造	解剖学 骨細胞 長骨・短骨・扁平骨など 運動の名称を列挙できる
2	関節の分類・構造 全身の骨格	滑膜性関節 関節の動き 全身骨格の名称 全身骨格の名称を列挙できる
3	体幹の骨 椎骨・肋骨など	骨の名称 骨上のランドマーク 椎骨【頸椎～腰椎・仙骨】の個数を説明できる 椎骨の基本構造を説明できる 各椎骨のランドマークを列挙できる 肋骨上のランドマークを列挙できる
4	肩甲骨・上腕骨 ・鎖骨	骨の名称 骨上のランドマーク 上肢帯・自由上肢【上腕骨】上のランドマークを列挙できる
5	橈骨・尺骨・手部	骨の名称 骨上のランドマーク 自由上肢【前腕・手部】上のランドマークを列挙できる 手根骨の並びを説明できる
6	骨盤【寛骨】	骨の名称 骨上のランドマーク 男女の差 寛骨上のランドマークを列挙できる 寛骨の男女差を説明できる
7	大腿骨	骨の名称 骨上のランドマーク 大腿骨上にあるランドマークを列挙できる
8	脛骨・腓骨	骨の名称 骨上のランドマーク 脛骨・腓骨上にあるランドマークを列挙できる
9	足部	骨の名称 骨上のランドマーク 距骨の構造 足部の骨の名称を列挙できる 距骨の構造を説明できる
10	復習	全身の骨の復習
11	試験	
12	予備日	試験返却 解答解説 頭蓋骨の名称 頭蓋骨の名称を列挙できる 各頭蓋骨の特徴を説明できる

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	筋肉について	分類 役割 動き方 全身にある筋肉の特徴を説明できる
2	全身の筋	全身の骨格筋について 全身の骨格筋の名称を列挙できる
3	体幹の筋	胸部・腹部の筋 胸腹部の筋の名称を列挙できる
4	体幹の筋	背部・頸部の筋 頸部・背部の筋の名称を列挙できる
5	体幹の運動	体幹の運動 体幹の運動を説明できる
6	上肢の筋	肩甲骨に付着する筋 肩甲骨に付着する筋の名称を列挙できる 肩甲骨の筋の作用を説明できる
7	下肢の運動	股関節・膝関節・足関節の運動とてこ 下肢の運動のてこを説明できる
8	上肢の筋	上腕部の筋・前腕部の筋・手部の筋 上肢の筋の名称を列挙できる
9	上肢の運動	肩関節・肘関節・手部の運動とてこ 上肢の運動を説明できる
10	復習	2 学期の復習
11	試験	
12	予備日	試験返却 解答解説

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	s	寛骨に付着する筋 寛骨に付着する筋の名称を列挙できる 寛骨に付着する筋の作用を説明できる
2	下肢の筋	大腿部の筋 大腿部に付着する筋の名称を列挙できる 大腿部の筋の作用を説明できる
3	下肢の筋	下腿・足部の筋 下腿・足部の筋の名称を列挙できる 下腿・足部の筋の作用を説明できる
4	顔面の筋・運動	表情筋 表情について 表情筋の特徴を説明できる
5	局所解剖	全身の局所解剖 全身の筋の名称を列挙できる 局所解剖について説明できる
6	局所解剖	全身の局所解剖 全身の筋の名称を列挙できる 局所解剖について説明できる
7	神経支配 体表観察	各筋肉の支配神経 体表から触知できる筋肉 全身の支配神経を分類できる
8	神経支配 体表観察	各筋肉の支配神経 体表から触知できる筋肉 全身の支配神経を分類できる
9	神経支配 体表観察	各筋肉の支配神経 体表から触知できる筋肉 全身の支配神経を分類できる
10	復習	3 学期の復習
11	試験	
12	予備日	試験返却 解答解説

科目名 【英】	解剖学② 【Anatomy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単位	4
学年	1年生	学期	通年	曜日	火曜	時限	2限

1学期 担当教員	高木 健之	実務者経験	専門学校臨床施設にて2年間施術担当				
2,3学期 担当教員	柴田 雅朗	実務者経験	1999年4月～大阪医科大学医学部に所属。 解剖学・組織学の講義、人体解剖に携わっている。				

学習内容	人体の組織的および肉眼的系統解剖学について学ぶ。						
到達目標	身体を構築する各臓器の構造を機能とともに理解する						

準備学習 時間外学習	解剖学用語は医学的な用語、漢字が多いので読み方がわからないときは辞書を用いて予習しておくこと						
使用教材	解剖生理学 東洋療法学校編						
留意点 備考	3Dで理解できるソフト、アプリなどを活用できると良い						

1学期 成績評価	本試験 90%、平常点 10%						
2,3学期 成績評価	本試験 100%						

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	人体の構成 1	細胞の構造、細胞分裂 細胞構造、細胞分裂について説明できる。
2	人体の構成 2	組織 各組織について名称を列挙できる。
3	人体の構成 3	組織、体表構造、人体の方向と区分 組織、体表構造、人体の方向と区分について説明できる。
4	循環器系 1	血管系、心臓 血管系について説明できる。 心臓の部位の名称を列挙できる。
5	循環器系 2	動脈系 動脈系について説明できる。 各部の動脈の名称を列挙できる。
6	循環器系 3	静脈系 静脈系について説明できる。 各部の静脈の名称を列挙できる。
7	循環器系 4	胎児循環、リンパ系 胎児循環について説明できる。 リンパ系に関連する名称を列挙できる。
8	循環器系 5	予備日
9	呼吸器系	鼻腔・副鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺 呼吸器系各部の名称を列挙できる。
10	復習	予備日、復習問題
11	試験	試験

12	予備日	試験問題の解説と復習
----	-----	------------

2 学期 授業計画【内容・目標】

1	消化器系 1	消化管の基本構造 消化管の基本構造について説明できる。
2	消化器系 2	口腔、咽頭 口、咽頭の部位の名称を列挙できる。
3	消化器系 3	食道、胃、小腸、大腸 食道～大腸までの部位の名称を列挙できる。
4	消化器系 4	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜 肝臓、胆嚢、膵臓について説明できる。 腹膜について説明できる。
5	泌尿器系	腎臓、尿路 腎臓、尿路の部位の名称を列挙できる。 泌尿器系の構造を説明できる。
6	生殖器系 1	男性生殖器 男性生殖器の部位の名称を列挙できる。 男性生殖器について説明できる。
7	生殖器系 2	女性生殖器 女性生殖器の部位の名称を列挙できる。 女性生殖器について説明できる。
8	生殖器系 3	受精と発生 受精と発生について説明できる。
9	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、性腺 各内分泌器官の説明ができる。
10	復習	予備日、復習問題
11	試験	試験
12	予備日	試験問題の解説と復習

3 学期 授業計画【内容・目標】

1	神経系 1	中枢神経系（1）脊髄、脳幹 中枢神経系の部位を列挙できる。
2	神経系 2	中枢神経系（2）間脳・大脳 間脳、大脳の説明ができる。
3	神経系 3	中枢神経系（3）脳室系、髄膜、脳脊髄液、脳の血管 脳脊髄液の流路について説明できる。 脳の血管の名称を列挙できる。
4	神経系 4	伝導路（1）反射路・下行性伝導路 反射路、下行性伝導路の名称を列挙できる。
5	神経系 5	伝導路（2）上行性伝導路 上行性伝導路の名称を列挙できる。
6	神経系 6	末梢神経系（1）脊髄神経 脊髄神経の名称を列挙できる。
7	神経系 7	末梢神経系（2）脳神経・自律神経 脳神経の名称を列挙できる。 自律神経について説明できる。
8	感覚器系 1	視覚器・味覚器 視覚器、味覚器の部位の名称を列挙できる。
9	感覚器系 2	平衡聴覚器・嗅覚器 平衡聴覚器、嗅覚器の部位の名称を列挙できる。
10	復習	予備日、復習問題
11	試験	試験
12	予備日	試験問題の解説と復習

科目名 【英】	生理学① 【Physiology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	土曜	時 限	1.2 限

担当教員	杉本 公一郎	実務者経験	2009 年～2015 年 医療法人恵登久会 越川病院にて リハビリテーション室 室長として勤務 2016 年 すぎもと鍼灸整骨院を開設
------	--------	-------	--

学習内容	人体の機能を知り、代謝や運動がどのように行われているのかを学習する。
到達目標	生理学の基礎となる細胞の構造・機能、物質の代謝や生体のリズムおよび免疫機序に対する知識を習得し更に神経系の調節機能、筋の構造と働き、運動や感覚機能の仕組みを理解し習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】解剖生理学 【配布資料】あり
留意点 備 考	

成績評価	本試験 70% 平常点 30%
------	--------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	生理学の基礎①	■ 生理学の特徴 ■ 細胞の構造と働き
2	生理学の基礎②	■ 物質代謝の仕組み ■ 体液の組成と働き ■ 物質の移動
3	ホメオスタシスと生体リズム	■ ホメオスタシス ■ 生体リズム
4	生体の防御機構①	■ 生体の防御機構と免疫 ■ 生体の防御機構に働く組織と因子
5	生体の防御機構②	■ 免疫反応の分類 ■ 炎症とアレルギー
6	神経①	■ 神経系概論 ■ ニューロンの構造と働き ■ 神経線維の興奮と伝導
7	神経②	■ 興奮の伝導と伝達
8	神経③	■ 中枢神経系・脊髄・脳幹・間脳
9	神経④	■ 小脳・大脳・大脳皮質の機能局在 電気活動
10	まとめ	
11	試験	
12	予備日	

2 学期 授業計画【内容・目標】

1	神経⑤	■ 末梢神経系
2	内臓の自律神経性調節①	■ 交感・副交感神経系
3	内臓の自律神経性調節②	■ 自律神経伝達物質と受容体 ■ 自律神経の中枢 ■ 自律神経反射
4	感覚①	■ 感覚の一般 ■ 体性感覚 表在感覚
5	感覚②	■ 体性感覚 深部感覚
6	感覚③	■ 内臓感覚
7	感覚④	■ 痛みの抑制系
8	感覚⑤	■ 特殊感覚 味覚 嗅覚 聴覚
9	感覚⑥	■ 平衡感覚 視覚
10	まとめ	
11	試験	
12	予備日	

3 学期 授業計画【内容・目標】

1	筋①	■ 骨格筋の構造と働き ■ 筋の収縮の仕組み
2	筋②	■ 筋のエネルギー供給の仕組み ■ 心筋と平滑筋の構造と働き
3	運動①	■ 骨格筋の神経支配
4	運動②	■ 運動の調節 ■ 脊髄レベルの調整 ■ 各種反射
5	運動③	■ 脊髄レベルの調整 反射 ■ 脳幹による運動調節 ■ 小脳による調節
6	運動④	■ 大脳基底核による調節 ■ 大脳皮質による調節 ■ 錐体路系と錐体外路系
7	臨床応用	■ 実技を含めた、生理学の臨床応用
8	まとめ	
9	1 学期復習	
10	2 学期復習	
11	試験	
12	予備日	

科目名 【英】	生理学② 【Physiology】			必修/選択	必須	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：金曜 2 学期：金曜 3 学期：土曜	時 限	1 学期：2 限 2 学期：1 限 3 学期：1.2 限

担当教員	藤原 法香	実務者経験	2017 年 4 月～2018 年 10 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸整骨院にて鍼灸施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	正常な人間の身体のはたらき、機能を学ぶ。 生理学のなかでも第 2 章～第 9 章の内容(循環・呼吸など)について学ぶ。
到達目標	正常な人間の身体のはたらき、機能について説明ができる。 はり師きゅう師の国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学と関連させながら復習する。
使用教材	教科書『解剖生理学』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として、生理学①の範囲の配布プリントを持参して受講することが望ましい。

成績評価	各章ごとに小テストを実施。小テスト 30 点満点に換算し、定期テスト 70 点満点に加算し評価する。
------	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	循環 1	循環【血液の組成と働き】 循環の基本的な血液の働きについて説明ができる。
2	循環 2	循環【血液の組成と働き】 赤血球・白血球・血小板・血漿の成分と機能について説明ができる。
3	循環 3	循環【止血・血液型】 一次止血・二次止血について説明ができる。血液型について説明ができる。
4	循環 4	循環【心臓血管系】 大循環と小循環の流れが説明できる。心臓の構造と働きについて説明ができる。
5	循環 5	循環【刺激伝導系・心機能の調節】 刺激伝導系の流れが説明できる。心周期と心音について説明ができる。
6	循環 6	循環【血液循環】 血管の構造と働きについて説明ができる。
7	循環 7	循環【循環調節】 血液循環の調節の仕組みについて説明ができる。
8	循環 8	循環【リンパ系】 リンパの機能、生成と組成、リンパの輸送について説明ができる。
9	呼吸 1	呼吸【呼吸器・換気とガス交換】 外呼吸と内呼吸について説明ができる。肺気量について説明ができる。
10	呼吸 2	呼吸【呼吸運動と調節】 吸息と呼息について説明ができる。呼吸の反射性調節について説明ができる。
11	試験	1 学期試験
12	1 学期まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	消化と吸収 1	消化と吸収【構造と機能】 消化器系の機能について説明ができる。
2	消化と吸収 2	消化と吸収【構造と機能】 消化酵素の種類と働きについて説明ができる。
3	消化と吸収 3	消化と吸収【消化管の運動】 咀嚼・嚥下(第1相～第3相)まで説明ができる。胃・小腸・大腸の運動の説明ができる。
4	消化と吸収 4	消化と吸収【消化液と吸収】 消化液とその働き、消化管ホルモンについて説明ができる。
5	消化と吸収 5	消化と吸収【消化液と吸収】 各栄養素の吸収について説明ができる。
6	消化と吸収 6	消化と吸収【肝臓の働き・摂食の調節】 肝臓、物質代謝について説明ができる。摂食の調節について説明できる。
7	代謝 1	代謝【栄養素の働き】 栄養素の働きと、エネルギーの代謝について説明ができる。
8	代謝 2	代謝【各栄養素の働きと代謝】 各栄養素の働きと代謝の仕組みについて説明ができる。
9	体温 1	体温【体温調節】 体温の変動について説明ができる。熱産生と熱放散について説明ができる。
10	体温 2	体温【発汗と調節】 発汗調節の仕組みについて説明ができる。
11	試験	2 学期試験
12	2 学期まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	排泄 1	排泄【腎臓の働き】 腎臓の働きと、腎循環について説明ができる。
2	排泄 2	排泄【尿生成】 尿の生成の流れについて説明ができる。
3	排泄 3	排泄【腎臓と体液の調節】 体液のpH、浸透圧調節、体液量の調節について説明ができる。
4	排泄 4	排泄【蓄尿と排尿】 膀胱と尿道の神経支配について説明ができる。
5	内分泌 1	内分泌【ホルモンの特徴】 ホルモンの特徴と作用機序について説明ができる。
6	内分泌 2	内分泌【ホルモンの種類とその働き】 視床下部と下垂体について説明ができる。
7	内分泌 3	内分泌【ホルモンの種類とその働き】 視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺のホルモンについて説明ができる。
8	内分泌 4	内分泌【ホルモンの特徴】 膵臓・副腎・精巣・卵巣のホルモンについて説明ができる。
9	生殖・成長と老化 1	生殖・成長と老化【生殖】 男性と女性の生殖器について説明ができる。性周期について説明ができる。
10	生殖・成長と老化 2	生殖・成長と老化【成長と老化】 身体各部位の成長と細胞の老化について説明ができる。
11	試験	3 学期試験
12	3 学期まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

科目名 【英】	医療概論 【Outline of Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	1 年生	学 期	3 学期	曜 日	金曜	時 限	2 限

担当教員	太田 育夫	実務者経験	2000 年～2002 年 近畿大学医学部付属病院にて助手として従事 2002 年～2003 年 大阪府立中河内救急にてレジデントとして従事 2003 年～2005 年 東大阪市立総合病院にて医員として従事 2005 年～2017 年 近畿大学医学部付属病院にて講師として従事 2017 年～ 社会医療法人三和会永山病院にて救急部長として従事
------	-------	-------	---

学習内容	医学と医療の歴史・現代医学の現状・医の倫理について学ぶ。
到達目標	医学と医療の歴史・現代医学の現状・医の倫理について説明できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	東洋療法学校協会編 医療概論 配布資料
留意点 備 考	

成績評価	本試験 100%
------	----------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	医学史	教科書及びプリント資料を使用 医学の歴史の概要を学ぶ
2	医学史	教科書及びプリント資料を使用 医学の歴史の概要を学ぶ
3	医療とは①	医療の歴史 東洋医学と西洋医学
4	医療とは②	医療制度
5	医療とは③	倫理
6	日本の医療	日本の医療の現状〔医療保健制度を中心として〕
7	医療倫理①	医療者の倫理について
8	医療倫理②	医療者の倫理について
9	医療倫理③	医療倫理についてのディスカッション
10	まとめ	今学期の復習
11	試験	
12	予備日	

科目名 【英】	衛生学・公衆衛生学① 【Hygiene and Public Health】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単位	1
学年	1年生	学期	3学期	曜日	水曜	時限	2限

担当教員	竹中 美樹	実務者経験	辻野夢鍼灸院（2014年8月～2016年3月）
------	-------	-------	-------------------------

学習内容	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、老人、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
到達目標	わが国の社会情勢について理解し、主に健康をめぐる諸問題、行政とシステムについて説明ができる水準に達すること。かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達すること。

準備学習 時間外学習	講義後、講義で得た要点を『衛生学・公衆衛生学第2版』にて復習する。
使用教材	『衛生学・公衆衛生学第2版』鈴木庄亮、公益社団法人東洋療法学校協会 編集（医歯薬出版） 『ライフスタイルと健康』森本曩 著（医学書院） 『国民衛生の動向』（厚生統計協会）
留意点 備考	講義中、まとめとしてははり師きゅう師国家試験で過去に出題された問題に触れる。

成績評価	本試験 100%
------	----------

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	第1章 公衆衛生の目的、衛生行政	【到達目標】衛生・公衆衛生の目的について・衛生行政の仕組みと組織体系について理解する。保健所と市町村保健センターの役割を説明できる。
2	第2章 疾病の予防と健康管理	【到達目標】プライマリーヘルスケアの全体像と健康管理について理解する。予防医学(1次、2次、3次)の具体的内容が説明できる。
3	第3章 ライフスタイルと健康	【到達目標】生活習慣に起因する危険因子について理解する。食中毒について各型・種類について理解する。健康観について、近年見直されている健康生成論について知る。
4	第4章 環境と健康	【到達目標】気圏環境・大気汚染について理解する。水圏環境・上水および下水・水質汚濁について理解する。公害による健康被害について理解する。典型7公害について説明できる。4大公害の発生場所と原因・疾病の内容が説明できる。
5	第5章 産業保健 第6章 精神保健	【到達目標】労働衛生にかかわる現状と課題について理解する。労働衛生3管理が説明できる。職業病と原因となる環境因子について説明できる。精神保健にかかわる現状と課題について理解する。主な精神疾患の特徴、精神保健の入院医療の定義について説明できる。
6	第7章 母子保健	【到達目標】妊産婦と乳幼児の保健管理の課題について理解する。母子保健行政について理解する。我が国の母子保健の水準について説明できる。母子保健行政の具体例について説明できる。
7	第8章 成人・高齢者保健	【到達目標】高齢者保健の現状と問題点について理解する。介護保険の対象者について説明できる。
8	第9章 感染症とその対策	【到達目標】感染症の3要因、感染源・感染経路・感受性の宿主の種類を理解する。感染症新法に基づく分類1類～3類まで説明できる。
9	第10章 消毒法 第11章 疫学	【到達目標】消毒法の種類・方法・対象物について説明できる。疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。
10	第12章 保健統計	【到達目標】我が国の衛生統計に関するげんじょうと変化・公衆衛生の問題点について理解する。人口動態の5事象、平均余命とはなにか説明できる。
11	試験	
12		試験の解答および解説

科目名 【英】	東洋医学概論① 【Outline of Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単位	3
学年	1年生	学期	2.3学期	曜日	火曜	時限	1限

担当教員	一井 綾乃	実務者経験	1996年4月～鍼灸院所属、 1996年7月～2013年3月大阪医大付属病院麻酔科ペインクリニック所属
------	-------	-------	--

学習内容	東洋医学の基礎を学ぶ。
到達目標	東洋医学に携わるものとして理解しておくべき陰陽五行論、蔵象、病証などを学習し、実際の臨床に応用できる基礎知識を得る。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『東洋医学概論』（東洋療法学校協会）、プリント
留意点 備考	毎回小テストを行う。

成績評価	各学期毎時間小テストを行う。その評価を20～30%、期末試験を70～80%で評価する。
------	---

2学期 授業計画【内容・目標】		
1	陰陽学説	陰陽学説を学習し、理解できる。
2	五行学説	五行学説を学習し、理解できる。
3	五行色体表	五行色体表を学習し、理解できる。
4	生理事質1	気、血、津液、精について学習し、理解できる。
5	生理事質2	気、血、津液、精について学習し、理解できる。
6	蔵象1	五臓六腑、奇恒の腑、十二官について学習し、理解できる。
7	蔵象2	肝、心の蔵象を理解できる。
8	蔵象3	心、脾の蔵象を理解できる。
9	蔵象4	脾、肺の蔵象を理解できる。
10	蔵象5	肺、腎、三焦の蔵象を理解できる。
11	試験	試験
12	振り返り	2学期の内容を理解し、復習する。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	病証 1	気、血、津液、精の病証について理解できる。
2	病証 2	八綱病証について理解できる。
3	病証 3	肝の病証について理解できる。
4	病証 4	心の病証について理解できる。
5	病証 5	脾の病証について理解できる。
6	病証 6	肺の病証について理解できる。
7	病証 7	腎の病証について理解できる。
8	病証 8	五臓の基本病証について理解できる。
9	病証 9	五臓の複合的な病証について理解できる。
10	まとめ	病証の伝変と波及について理解できる。
11	試験	試験
12	振り返り	3 学期の内容を理解し、復習する。

科目名 【英】	経絡経穴概論① 【Outline of the Meridians and Acupuncture Point】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通年	曜 日	木曜	時 限	1 限

担当教員	駒井 知佳子	実務者経験	2009 年 4 月～2014 年 6 月不妊治療専門病院にて受胎鍼担当。 2014 年 4 月桃の花針灸院開院。
------	--------	-------	--

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】新版 経絡経穴概論
留意点 備 考	1. 講義と取穴実技を行う。 実技では取穴しやすい服装を用意すること。お互いに尊重しあって行うこと。 2. 出席は自分で管理すること。

成績評価	本試験 60% 平常点 40%。平常点は授業中に行う小テスト＋経穴暗唱で評価する。
------	---

授業計画【内容・目標】		
1	導入／陰陽の概念	陰陽の概念
2	五臓六腑・五行説の概念	五臓六腑、五行説と経絡経穴の概念
3	骨度法	骨度法
4	督脈①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
5	督脈②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
6	任脈	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
7	手太陰肺経	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
8	手陽明大腸経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
9	取穴テスト	範囲：督脈、任脈、手太陰肺経
10	手陽明大腸経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
11	試験	試験
12	テスト返却	解答と解説

授業計画【内容・目標】

1	足陽明胃経胃経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
2	足陽明胃経胃経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
3	足陽明胃経胃経③	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
4	足太陰脾経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
5	取穴テスト	範囲：手陽明大腸経、足陽明胃経
6	足太陰脾経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
7	手少陰心経	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
8	手太陽小腸経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
9	手太陽小腸経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
10	取穴テスト	範囲：足太陰脾経、手少陰心経、手太陽小腸経
11	試験	試験
12	テスト返却	解答と解説

授業計画【内容・目標】

1	足太陽膀胱経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
2	足太陽膀胱経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
3	足太陽膀胱経③	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
4	足少陰腎経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
5	足少陰腎経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
6	取穴テスト	範囲：足太陽膀胱経
7	手厥陰心包経	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
8	手少陽三焦経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
9	手少陽三焦経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
10	取穴テスト	範囲：足少陰腎経、手厥陰心包経、手少陽三焦経
11	試験	試験
12	テスト返却	解答と解説

科目名 【英】	はりきゅう理論① 【Scientific Foundation of Acupuncture】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単位	1
学 年	1 年生	学 期	1 学期	曜 日	土曜	時 限	1.2 限

担当教員	後藤 卓	実務者経験	2001 年 4 月～2003 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	------	-------	--

学習内容	はり術、きゅう術の基礎を学ぶとともに様々な鍼灸の治療法を学ぶ
到達目標	☐ はりきゅう治療の適応・不適応および消毒の概念の習得 ☐ 基礎的なはりきゅう治療の知識の習得 ☐ 伝統的なはりきゅう治療法の知識の習得

準備学習 時間外学習	はりきゅう理論の教科書を事前に読んでおく
使用教材	【教科書】はりきゅう理論 【配布資料】あり
留意点 備 考	なし

成績評価	各学期に 3 回小テストを実施。期末試験 70%+小テスト 20%+出席点 10%で評価する。
------	---

授業計画【内容・目標】		
1	第 1 章 概論 第 2 章 鍼の基礎知識	■ 鍼灸の歴史と鍼灸に必要な古代思想 ■ 毫鍼の各部の名称
2	第 2 章 鍼の基礎知識	■ 鍼の太さと長さの基準 ■ 鍼先の形状と特徴・鍼の材質と特徴・鍼管の材質と特徴
3	第 2 章 鍼の基礎知識	■ 古代九鍼の種類と特徴
4	第 3 章 刺鍼の方式と術式	■ 刺鍼の方式〔撚鍼法・打鍼法・管鍼法〕 ■ 刺鍼の術式〔揉撚法・押手・刺手・切皮・刺入法・刺鍼の角度〕
5	第 3 章 刺鍼の方式と術式	■ 刺鍼中の手技〔現行 17 手技〕
6	第 4 章 特殊鍼法	■ 小児鍼・皮内鍼・円皮鍼・灸頭鍼
7	第 4 章 特殊鍼法	■ 低周波鍼通電療法・耳鍼・レーザー鍼・頭鍼療法・イオン鍼・刺絡
8	第 5 章 灸の基礎知識	■ 艾について〔原料・成分・品質〕・線香
9	第 6 章 灸術の種類	■ 有痕灸〔透熱灸・焦灼灸・打膿灸〕の概要 ■ 無痕灸〔知熱灸・温灸・隔物灸・艾を使用しない灸法〕のそれぞれの概要と種類
10	第 7 章 鍼灸の臨床応用	■ はりきゅうの刺激量 ■ 固体(患者)の感受性 ■ 鍼灸療法の適応と禁忌
11	試験	試験
12	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・まとめ

科目名 【英】	はりきゅう実技①～基礎はり実技～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	月曜	時 限	1 限

担当教員	北村 智	実務者経験	1970 年 6 月～1987 年 3 月 鍼灸院所属(鍼灸施術に従事) 1976 年 4 月～2003 年 3 月 専門学校、短大、大学に勤務 (基礎教科、鍼灸実技、臨床実習の授業担当) 2006 年 4 月～ 東洋医療専門に非常勤勤務(はりきゅう基礎実習担当)
------	------	-------	---

学習内容	はり施術を適切に行うために不可欠な技術を修得するための基本操作・技術を習得する。
到達目標	鍼灸に不可欠なハリを刺す基礎技術がスムーズ、且つ正確に操作でき、施術 point(経穴)に安全に、且つ効果的な刺鍼(ハリを刺すこと)ができる。

準備学習 時間外学習	経穴学(取穴法)・解剖学(体表解剖学)・刺鍼基礎マニュアルの予習が必要。 刺鍼や施灸の基礎技術(片手挿管や紙上施灸)の時間外練習が必要。
使用教材	『刺鍼基礎実習ガイドライン』『刺鍼基礎マニュアル』『施灸基礎マニュアル』
留意点 備 考	講義内容を書き取る「メモ帳」白衣のポケットに常備して受講することが望ましい。

成績評価	実技試験 60% 基礎技術点 30% 出席点 10%
------	--------------------------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	プロローグ	教材の整理状況確認。実習用具の作製。用具の名称。刺手と押手。授業の準備(段取りを含め)や後片付け。 資料や用具の整理整頓、準備・段取り・後片付けの必要性和、用具の名称が理解できる。
2	片手挿管操作導入編Ⅰ	資料や用具の整理整頓と用具作製の完成度を確認。片手挿管操作の段階的練習方法の demonstration。練習。 一定のリズムで連続的な操作を習得し、1 分間に 10 回以上の基本操作ができることを目標とする。
3	片手挿管操作導入Ⅱ 柔撚法と押手	片手挿管操作導入編Ⅰの 5 分間タイムトライアル。刺鍼枕上での片手挿管操作の一連の流れ。 前柔法、押手固定、鍼管の立て方、弾入・切皮、抜管・抜鍼、後揉法の重要性について習得する。
4	片手挿管操作Ⅰ	刺鍼枕上での片手挿管操作の練習。 一定のリズムでの連続的な操作を習得する。取穴、前柔撚法、押手(三原則)、後柔撚法について理解する。
5	片手挿管操作Ⅱ 旋撚刺法	片手挿管操作の練習と 5 分間タイムトライアル。旋撚刺法の練習。 刺鍼枕上での刺鍼操作と旋撚刺法を習得する。
6	片手挿管操作Ⅲ 施術の準備と後片付け	基礎技術操作の練習とタイムトライアル。手指の洗浄と消毒、用具の準備と後片付け。 施術用具を清潔に、そして段取りのよい準備と衛生的な用具の片付けを習得する。
7	施術の準備Ⅰ 旋撚刺法Ⅰ	用具の準備。基礎技術操作の練習とタイムトライアル。枕上での刺鍼練習。 用具の準備、片付けが正しくできる。枕上での旋撚刺鍼の習得。
8	施術の準備Ⅱ 旋撚刺法Ⅱ	用具の準備。基礎技術操作の練習とタイムトライアル。枕上での刺鍼練習。 用具の準備、片付けが正しくできる。枕上での旋撚刺鍼の習得。
9	施術の準備Ⅲ 旋撚刺法Ⅲ	用具の準備。基礎技術操作の練習とタイムトライアル。枕上での刺鍼練習。 用具の準備、片付けが正しくできる。枕上での旋撚刺鍼の習得。
10	術前の準備と 後片付けの試験	手指消毒法、ワゴンの清掃、用具の準備、後片付けの仕方の評価。
11	片手挿管操作と 旋撚操作の試験	枕上での片手挿管操作の完成度と旋撚操作の修得度の評価。
12	エピローグ	1 学期の復習。 試験の結果を踏まえて、個々の改善点を指導する。 2 学期の授業内容と目標。 技術修得の方法と目標の小論文(宿題)。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	取穴と刺鍼の感覚①	鍼の材質や番手の相違による刺鍼感覚 材質や番手の相違による刺鍼の感覚が異なることを習得する。 刺鍼部位の変化を触知して正確に切皮・刺入する。正しく取穴して、的確に刺鍼する技術を習得する。
2	取穴と刺鍼の感覚②	刺鍼練習用具を用いて、正確に取穴、刺鍼する練習 刺鍼部位(経穴)の変化を察知して、正確に取穴、刺鍼する技術を習得する。
3	取穴と刺鍼の感覚③	刺鍼練習用具を用いて、正確に取穴、刺鍼する練習。 骨間や腱間、骨際へ正確に取穴、刺鍼する技術を習得する。
4	下腿部のc取穴と刺鍼	送込み刺法 鍼に旋撚を加えずに刺入する方法を習得する。 陽陵泉、足三里、陰陵泉、地機を取穴法 経絡の流注、取穴部位と取穴法を習得する。
5	施術部の消毒法と切皮	術前・術後の消毒法 術前・術後を通じて、施術部を衛生的に消毒することを習得する。 下腿部の脾経上での弾入・切皮 脛骨骨際を取穴して、無痛切皮を習得する。
6	経穴部位への刺鍼	旋撚刺入の練習 陰陵泉と地機に旋撚直刺15mm刺入を習得する。 送込み刺入の練習 陽陵泉と足三里に送込み直刺15mm刺入を習得する。
7	刺鍼転向法Ⅰ	刺鍼転向法の解説と demonstration 左右の地機穴に旋撚刺入直刺15mmの直刺置鍼後、上方向に刺鍼転向(45度斜刺)を習得する。
8	刺鍼転向法Ⅱ	旋撚と送込みで刺入した後、直刺でない場合、刺鍼転向で直刺に、あるいは直刺では斜刺に刺鍼転向する。 目的の方向に刺鍼できない場合、目的の方法に刺鍼転向ができる。
9	基礎実習の復習	手指の洗浄と消毒、用具の準備と後片付けの復習。正しい施術の準備ができる。 下腿部経穴の取穴法と刺鍼法の復習 取穴と刺鍼が正しくできる。
10	片手挿管操作の試験	片手挿管操作の完成度の評価。
11	消毒法と旋撚刺法の試験	施術前後の消毒法と地機穴での旋撚刺入操作との評価。
12	エピローグ	2学期の復習。試験の結果を踏まえて、個々の改善点を指導する。 3学期の授業内容と目標。技術修得の方法と目標の小論文(宿題)。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	背腰部の取穴	背部俞穴の取穴基準線と背腰部の施術の注意点について。 取穴基準線を理解し、基準線に一致する経穴が取穴できる。
2	背腰部での刺鍼	ヤコビー線を基準にしての取穴法と刺鍼の方法。腰陽関と命門穴を取穴でき、腎俞と大腸俞に刺鍼できる。
3	募穴について	募穴と刺鍼方法について。募穴と臓腑(経絡)、部位と体幹の陰陽の関係が理解できる。
4	上・下肢の要穴の施術	上・下肢の流注と取穴法、刺鍼方法。上・下肢の要穴の経穴の取穴と刺鍼ができる。
5	肩甲上部と肩関節周辺の施術	肩甲上部と肩関節周辺の取穴法と刺鍼法。肩甲上部と肩関節周辺の取穴が取穴でき、刺鍼ができる。
6	上・下肢部要穴の刺鍼Ⅰ	上・下肢部経穴の臨床的取穴法について。 学問的取穴法と臨床的取穴法を理解し、経穴反応を捉えての刺鍼ができる。
7	上・下肢部要穴の刺鍼Ⅱ	上・下肢部経穴での刺鍼を復習。上・下肢部での取穴、刺鍼が正しくできる。
8	上・下肢部要穴の刺鍼Ⅲ	上・下肢部経穴での刺鍼を復習。上・下肢部での取穴、刺鍼が正しくできる。
9	上・下肢部要穴の刺鍼Ⅳ	上・下肢部経穴での刺鍼を復習。上・下肢部での取穴、刺鍼が正しくできる。
10	旋撚刺入の試験	地機穴の取穴法と旋撚刺法技術の評価。
11	送込み刺入の試験	足三里穴の取穴法と送込み刺法技術の評価。
12	エピローグ	3学期の復習。試験の結果を踏まえて、個々の改善点を指導する。

科目名 【英】	はりきゅう実技②～基礎きゅう実技～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：水曜 2. 3 学期：木曜	時 限	2 限

担当教員	駒井 知佳子	実務者経験	2009 年 4 月～2014 年 6 月不妊治療専門病院にて受胎鍼担当。 2014 年 4 月桃の花針灸院開院。
------	--------	-------	--

学習内容	身体に安全かつ有効な施灸ができるように、技術を学ぶ。	
到達目標	1 学期：紙上施灸・板状施灸がおこなえる。 2 学期：安全に身体施灸をおこなえる。 3 学期：身体施灸の応用をおこなえる。	

準備学習 時間外学習	
使用教材	実技道具、【教科書】はりきゅう実技、図解施灸基礎実践マニュアル、
留意点 備 考	服装など規定の準備をしておくこと。

成績評価	本試験 50% 平常点 50%（中間試験とレポート作成等）
------	-------------------------------

授業計画【内容・目標】		
1	導入	灸術と授業内容の説明
2	練習道具作成	施灸板、艾炷模型の作製説明
3	艾炷作製 1	艾を棒状にする、摘む、立てる
4	艾炷作製 2	艾炷に着火する
5	艾炷作製 3	艾炷作製～着火まで一通りできるようになる
6	施灸基礎 1	紙上施灸開始
7	施灸基礎 2	消火の練習
8	施灸基礎 3	自身に施灸する
9	期末試験練習	期末試験の説明と練習
10	期末試験 1	板上施灸、紙上施灸
11	期末試験 2	板上施灸、紙上施灸
12	施灸基礎 4	他者に施灸する

授業計画【内容・目標】

授業計画【内容・目標】		
1	身体施灸初級 1	心地よい消火の練習
2	身体施灸初級 2	治療の流れを身につける（印付けから消毒まで）
3	身体施灸初級 3	半米粒大の作製と施灸
4	身体施灸中級 1	仰臥位での施灸
5	身体施灸中級 2	伏臥位での施灸
6	身体施灸中級 3	腰部への施灸
7	身体施灸上級 1	腰痛の施灸
8	身体施灸上級 2	腰痛の施灸
9	期末試験練習	期末試験の説明と練習
10	期末試験 1	板上施灸、紙上施灸、身体施灸
11	期末試験 2	板上施灸、紙上施灸、身体施灸
12	期末試験まとめ	総括と追再試験

授業計画【内容・目標】

授業計画【内容・目標】		
1	臨床実習前実技 1	ディスカッションとレポート作成 テーマ：マナー
2	身体施灸応用 1	澤田流太極療法 1
3	身体施灸応用 2	澤田流太極療法 2
4	臨床実習前実技 2	ディスカッションとレポート作成 テーマ：守秘義務
5	身体施灸応用 3	乱取り施灸 1
6	身体施灸応用 4	乱取り施灸 2
7	臨床実習前実技 3	ディスカッションとレポート作成 テーマ：シュミレーション
8	期末試験練習 1	期末試験の説明と練習
9	期末試験練習 2	期末試験の説明と練習 および 板状試験（前倒し実施）
10	期末試験 1	紙上施灸、身体施灸
11	期末試験 2	紙上施灸、身体施灸
12	期末試験まとめ	総括と追再試験

科目名 【英】	はりきゅう実技③～臨床基礎実技～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	1 年生	学 期	通年	曜 日	1.2 学期：水曜 3 学期：金曜	時 限	1 限

1.2 学期 担当教員	林 眞早	実務者経験	2013 年 2 月～ 治療院開業
----------------	------	-------	-------------------

1.2 学期 学習内容	片手挿管法と紙上施灸の習得。身体指標を確認し取穴した経穴に鍼・灸を行う。
1.2 学期 到達目標	鍼灸師になるために必要な鍼・灸の基礎技術の習得。

1.2 学期	
準備学習 時間外学習	自主練習が必要。
使用教材	教科書『はりきゅう実技＜基礎編＞』『経絡経穴概論』（東洋療法学校協会） 配布プリント
留意点 備 考	実技では学生同士で身体に触れて取穴や施術を行います。取穴しやすい服装で。お互いを尊重し合って行うこと。

成績評価	実技試験 50%＋平常点 50%で評価する。
------	------------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	導入	自己紹介、授業内容、評価方法、督脈・棘突起などの背中の絵
2	鍼灸臨床導入	鍼灸臨床にあたって施術室の管理、患者の体位、安全性、医療過誤について知る（はりきゅう実技（基礎）p4～9）、棘突起を数える
3	体表観察	仙骨裂孔、ヤコビー線、棘突起、肩甲骨下角、肩甲骨内端、外後頭隆起など督脈で用いる主に背部の骨指標の確認を行う / 胸骨の確認（周辺の経穴説明）
4	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（脛骨内側顆・膝蓋骨尖・内果尖・外果尖）とそれに関係する経穴、各身体部位寸法、片手挿管操作の練習、板上施灸の練習
5	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（脛骨粗面）とそれに関係する経穴、各身体部位寸法、片手挿管操作の練習（タイムトライアル）、板上施灸の練習
6	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（上腕骨外側上顆・内側上顆）とそれに関係する経穴、片手挿管操作の練習（タイムトライアル）、板上施灸の練習
7	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（胸骨角・第2肋骨）とそれに関係する経穴、片手挿管操作の練習（タイムトライアル）、紙上施灸練習
8	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標（第2正中仙骨稜・上後腸骨棘）とそれに関係する経穴、片手挿管操作の練習（タイムトライアル）、紙上施灸練習
9	試験練習	試験の流れについて、注意点と評価方法および試験練習
10	試験	
11	試験	
12	追再試験	追再試験

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	体表観察 身体刺鍼 基礎術式練習	上肢の筋腱、動脈拍動部、神経、肩周囲、頸部周囲など肺経、大腸経で用いる主に上肢の骨指標の確認または骨度法に基づく寸法の取り方を確認し、実際に上肢の経穴部への身体刺入を行う 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習（ペア施灸）
2	体表観察 身体刺鍼	上肢の筋腱、動脈拍動部、神経、肩周囲、頸部周囲など肺経、大腸経で用いる主に上肢の骨指標の確認または骨度法に基づく寸法の取り方を確認し、実際に

	基礎術式練習	上肢の経穴部への身体刺入を行う 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習、ペア施灸
3	特殊灸法 基礎術式練習	市販灸(せんねん灸など) 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習(ペア施灸)
4	体表観察 身体刺鍼 基礎術式練習	下肢の筋腱、動脈拍動部、神経、腹部寸法、顔面部など脾経、胃経で用いる 主に下肢と顔面部の骨指標の確認または骨度法に基づく寸法の取り方を確認し 実際に下肢の経穴部への身体刺入を行う 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習、ペア施灸
5	体表観察 身体刺鍼 基礎術式練習 特殊灸法	棒灸・押し灸 下肢の筋腱、動脈拍動部、神経、腹部寸法、顔面部など脾経、胃経で用いる 主に下肢と顔面部の骨指標の確認または骨度法に基づく寸法の取り方を確認し 実際に下肢の経穴部への身体刺入を行う 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習、ペア施灸
6	特殊灸法 基礎術式練習	隔物灸(生姜灸、塩灸) 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習、ペア施灸
7	体表観察 身体刺鍼 基礎術式練習 特殊灸法	塩灸 上肢の筋腱、動脈の走行、神経など心経、小腸経で用いる主に上肢の骨指標の 確認または骨度法に基づく寸法の取り方を確認し、実際に上肢の経穴部への 身体刺入を行う 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習、ペア施灸
8	特殊灸法 基礎術式練習	箱灸 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習、ペア施灸
9	基礎術式練習 試験練習	片手挿管操作の練習、紙上施灸練習、ペア施灸 試験の流れについて、注意点と評価方法および試験練習
10	試験	
11	試験	
12	追再試験	追再試験

3 学期 担当教員	翁 祖耀	実務者経験	1974 年～ おきな鍼灸治療院 開業
--------------	------	-------	---------------------

3 学期 学習内容	はり師になるための必要な知識ならびに施鍼技術を習得する
3 学期 到達目標	①うまく切皮・刺入することが出来る②片手挿管は 10 分間 120～150 回行う事が出来る③鍼による医療過誤の予 防法と対処法を学ぶ④身体各部位へ安全な施鍼を行うことが出来る⑤低周波鍼通電療法の基礎を学ぶ

3 学期	
準備学習 時間外学習	鍼枕及び身体への切皮・刺入の練習
使用教材	銀鍼
留意点 備考	送り込み刺法、旋撚刺法で直刺が出来る

成績評価	担当教員の身体への刺鍼によって評価する 実技試験 100 点
------	--------------------------------

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	導入	授業内容、評価方法の説明等
2	身体刺鍼 基礎術式練習	背部俞穴への刺鍼、施術における注意点(医療過誤が生じ易い経穴部)、経穴の触知 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
3	身体刺鍼 基礎術式練習	背部俞穴への刺鍼、施術における注意点(医療過誤が生じ易い経穴部)、経穴の触知 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
4	身体刺鍼 基礎術式練習	腹部への刺鍼、施術における注意点(医療過誤が生じ易い経穴部)、経穴の触知 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
5	身体刺鍼 基礎術式練習	頸肩背部への刺鍼、施術における注意点(医療過誤が生じ易い経穴部)、経穴の触知 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
6	身体刺鍼 基礎術式練習	頸肩背部への刺鍼、施術における注意点(医療過誤が生じ易い経穴部)、経穴の触知 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習

7	特殊灸法 基礎術式練習	灸頭鍼 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
8	特殊灸法 基礎術式練習	灸頭鍼 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
9	試験練習 基礎術式練習	試験の流れについて、注意点と評価方法および試験練習 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
10	試験	
11	試験	
12	追再試験	追再試験